

日本教育方法学会

第42回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 9月30日・土	8：30	受 付 開 始									
	9：30	課 題 研 究 I 教科で育てたい「力」とは					課 題 研 究 II 小学校における英語教育				
	11：30										
	11：40										
	12：30	総 会									
	13：30	休 憩									
		自由 研究 1	自由 研究 2	自由 研究 3	自由 研究 4	自由 研究 5	自由 研究 6	自由 研究 7	自由 研究 8	自由 研究 9	自由 研究 10
	15：40										
	15：50	公 開 シ ン ポ ジ ウ ム 学力論議の新しい枠組みを探る									
	18：20										
	18：30										
	20：00	会 員 懇 親 会									

第 二 日 10月1日・日	8 : 30	受 付 開 始								
	9 : 15	自由 研究 11	自由 研究 12	自由 研究 13	自由 研究 14	自由 研究 15	自由 研究 16	自由 研究 17	自由 研究 18	自由 研究 19
	11 : 55	休 憩								
	13 : 00	課 題 研 究 Ⅲ 特別支援教育と学級経営				課 題 研 究 Ⅳ 教育実践をいかに理論化し、 その知見をどのように伝えていくか －教育方法学と教育実践の関係を問い直す－				
	15 : 00									
	15 : 20									
	16 : 50	レクチャー・デモンストレーション (大会校企画)			ワークショップ①			ワークショップ②		

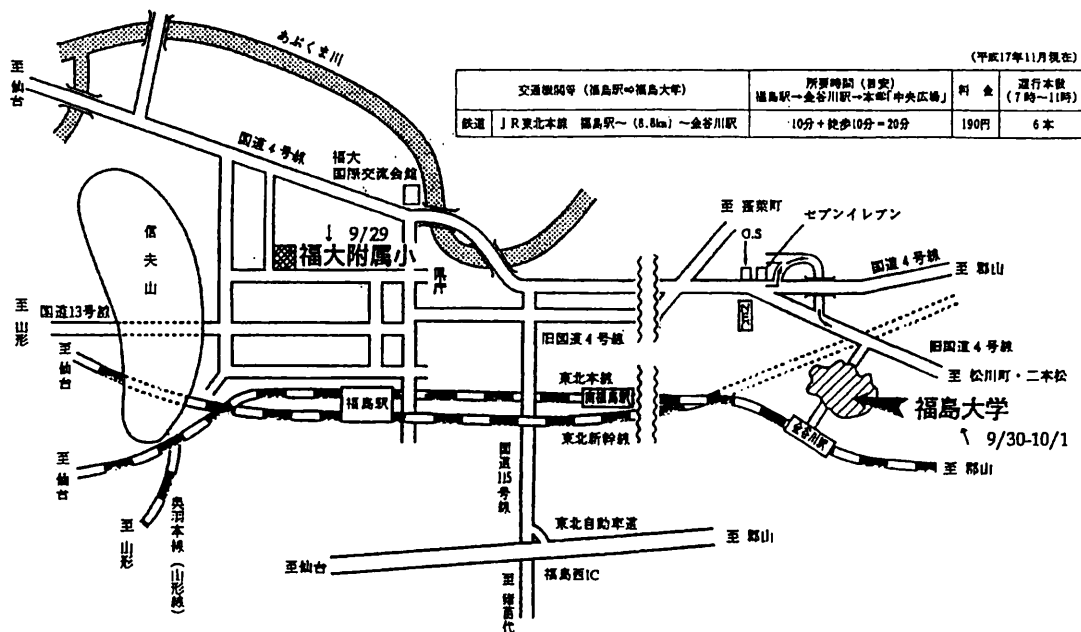
2006年9月30日(土)・10月1日(日)
於 福島大学 (金谷川キャンパス)

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、福島大学（金谷川キャンパス）です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
 2. 受付：両日ともに8：30からとなります。
受付はM棟1階中央フロアで行います。
 - ・大会参加費（発表要旨集録代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法35』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、15頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
 3. 昼食：土日ですが、学内の食堂及び購買部に営業していただきますので、ご利用下さい。
（営業時間 第1日（土）：11:00～15:00、第2日（日）：11:00～14:00）
ただし、限定営業のため、数などに限りがございますので、ご容赦下さい。
お弁当は、事前に申し込まれた方にのみ、ご用意いたしております。
 4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
 - 個人研究：発表20分 質疑10分
 - 共同研究：発表30分 質疑10分（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。
- ※大会に関するお問い合わせは、学会事務局（TEL/FAX: 082-424-6744）にお願いいたします。

〈福島大学・金谷川キャンパス案内図〉

〔会場への主要経路〕



※福島大学の最寄り駅はJR 金谷川駅、附属小学校の最寄り駅はJR 福島駅です (6頁参照)。ご注意ください。

福島大学 (金谷川キャンパス) への交通手段については、下記をご参照下さい。

① 各地から福島へ

(a) 飛行機

各地の空港から福島空港までは、伊丹空港から・関西空港から1日6便 (JAL系およびANA系)、名古屋 (中部国際) 空港から1日2便 (ANA系)、札幌 (新千歳) 空港から1日2便 (ANA系) 運行しております。福島空港から福島市内へは、「JR 郡山駅」までリムジンバス (所要時間40分) をご利用の上、東北新幹線を利用 (所用時間約16分、新幹線 (指定席) で片道2,300円) して「JR 福島駅」にて東北本線に乗り換え、「JR 金谷川駅」で下車、または「JR 郡山駅」より東北本線を利用し、「JR 金谷川駅」 (所要時間約50分、片道820円) で下車。

(b) JR

東京からは「東北新幹線 (やまびこ)」 (1時間に2～3本) あるいは「山形新幹線 (つばさ)」 (1時間に1本程度) を利用し、「JR 福島駅」まで、約100～120分 (片道8,700円)。仙台からは「東北新幹線 (やまびこ)」 (1時間に2～3本) を利用し、「JR 福島駅」まで約16分 (片道3,680円)。

(c) 高速バス

新宿 (片道4,800円)、仙台 (片道800円)、郡山 (片道700円)、大阪 (夜行バス・片道12,740円) 便などが運行しています。

(d) 自動車

東北自動車道をご利用の上、「二本松インターチェンジ」で一般道へ出てください。

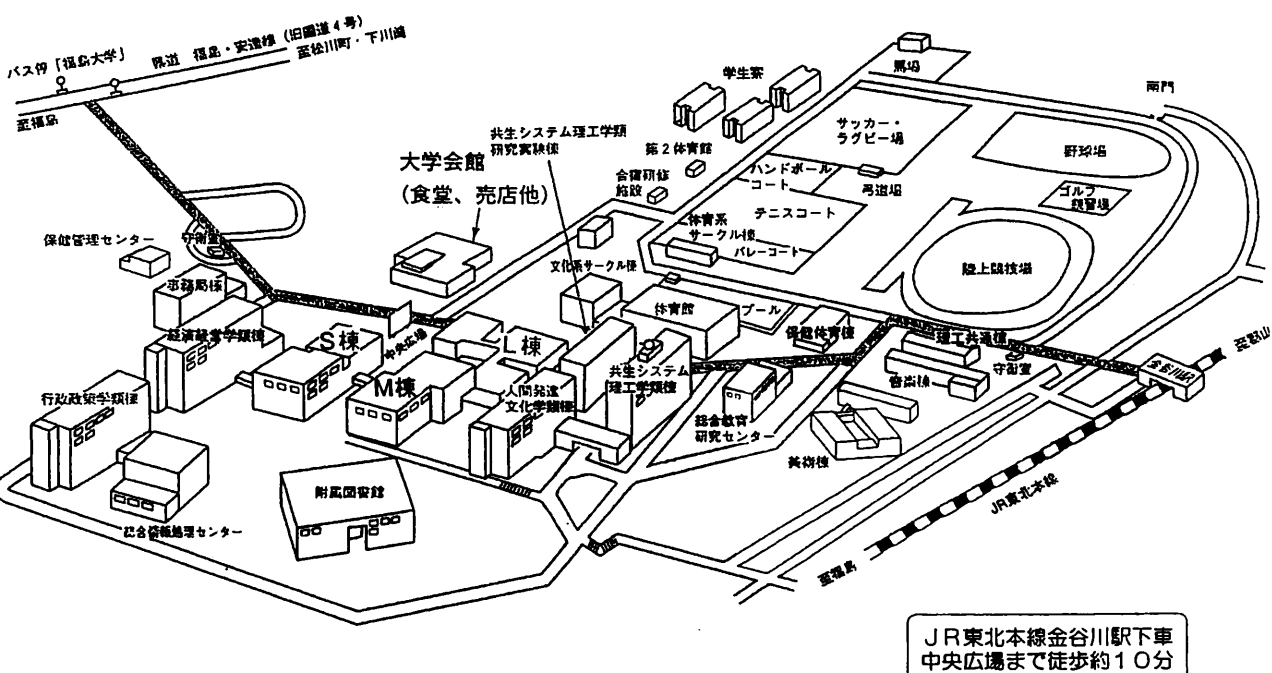
② 市内交通 (会場校まで)

大会会場までは、JR東北本線がもっとも便利です。福島交通バスも福島駅東口より運行しておりますが、便数が僅少のため、JRのご利用をお勧めいたします。

(a) 「JR 福島駅」から東北本線で「郡山 or 黒磯行き」で約10分 (1時間に約2本運行)、「JR 金谷川駅」下車 (料金170円)。「JR 金谷川駅」から会場 (福島大学講義棟: 受付はM棟) まで徒歩約10分。

(b) 「JR 福島駅」からタクシーで約30～50分。

〈会場配置図〉



L 棟：総会，シンポジウム，レクチャー・デモンストレーション

M 棟：受付，事務局，会員控室，クロック，課題研究Ⅰ～Ⅳ

S 棟：自由研究Ⅰ～ⅱ，ワークショップ①・②，新理事会

大学会館：会員懇親会

会場配置

課題研究Ⅰ・Ⅲ：M21

課題研究Ⅱ・Ⅳ：M22

総会・シンポジウム：L4

自由研究Ⅰ・ⅱ：S24

自由研究Ⅱ・ⅱ：S22

自由研究Ⅲ・ⅱ：S23

自由研究Ⅳ・ⅱ：S21

自由研究Ⅴ・ⅱ：S31

自由研究Ⅵ・ⅱ：S32

自由研究Ⅶ・ⅱ：S33

自由研究Ⅷ・ⅱ：S34

自由研究Ⅸ・ⅱ：S35

自由研究Ⅹ：S36

レクチャー・デモンストレーション：L4

ワークショップ①：S21

ワークショップ②：S22

会員控室：M2

事務局：M3

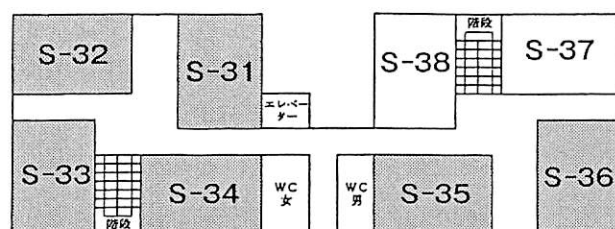
クロック：M4

新理事会：S28

*お弁当の引き渡しは，受付で行います。

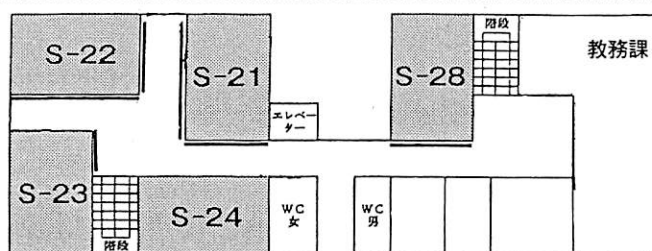
*会員懇親会は，大学会館2階，大集会室で開催いたします。

〈教室 配置 図〉

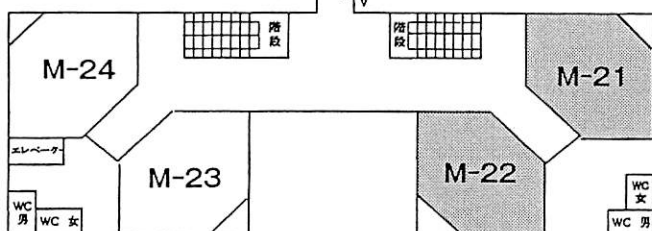


S棟3階

※ S棟は4階建てですが、
使用するのは2・3階のみです。



S棟2階

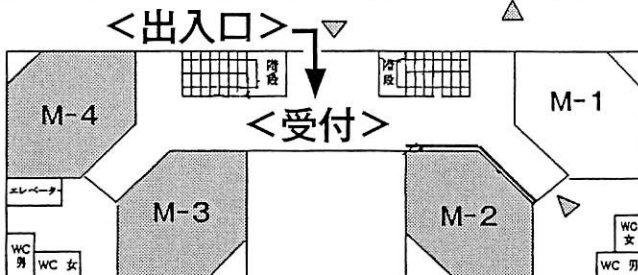


M棟2階

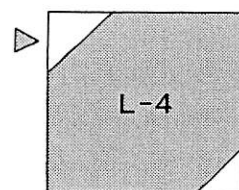
※ M棟は3階建てですが、
使用するのは2階までです。



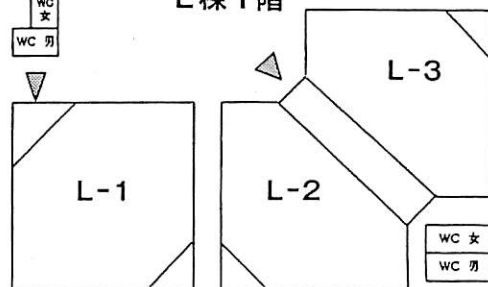
S棟1階



M棟1階



L棟1階



シ
人
ス
テ
ム
間
免
遭
文
理
工
学
類
課
へ
共
生

<出入口>
<受付>

9月29日(金) 公開授業・授業検討会

- 大会プログラムの「課題研究Ⅰ」(9/30)に連動して、9月29日(金)に福島大学附属小学校において、公開授業と授業検討会を行います。参加費は無料となっておりますので、皆様、ふるってご参加ください。
- なお、参加のお申込みは、学会事務局へ9月25日(月)までに必ずお願い致します。

■ プログラム : 大会前日9月29日(金)

9月29日(金)	12:45～	受 付 (会場: 福島大学附属小学校玄関)
	13:25～	公 開 授 業 (会場: あおい広場/参観者控室: 図書室)
	14:10	授業者: 川井孝寿 5年1組社会科「日本の工業製品 世界をかける」
	14:30～	授 業 検 討 会
	16:00	テーマ: 授業で育てたい「力」とは (会場: あおい広場)

■ 授業の概要

【授 業 者】 川井孝寿 (かわい こうじ) 第5学年1組担任 研究教科 社会科

【単 元 名】 日本の工業製品 世界をかける

【単元の概要】

子どもたちは、前単元「考えよう わたしたちの食料」の学習を通して、稲作や畜産など我が国の農業は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかわりをもって営まれていることをとらえてきた。

そのような子どもたちに、本単元では、我が国の工業生産に従事している人々が、自然環境の保全を考えながら生産を高める工夫や努力をしている姿にふれさせていきたい。また、その中で、国民生活を支える工業生産の意味について考えさせたり、貿易や運輸が工業生産を支えているという産業の構造をとらえさせたりしていきたい。そして、私たちの便利な生活が工業生産に携わる人々のたゆまない努力と工夫に支えられていること、さらには、我が国の工業が主に原料を輸入し、製品を外国に輸出して発展していることに気付かせ、多面的に我が国の産業や生活の在り方について考えることができるようにさせていきたい。

〈問題提起者〉

谷川彰英 (筑波大学)・初澤敏生 (福島大学)

〈授業者〉

川井孝寿 (福島大学附属小学校)

〈司会者〉

宮前 貢 (福島大学総合教育研究センター
・元福島大学教育学部附属小学校副校長)

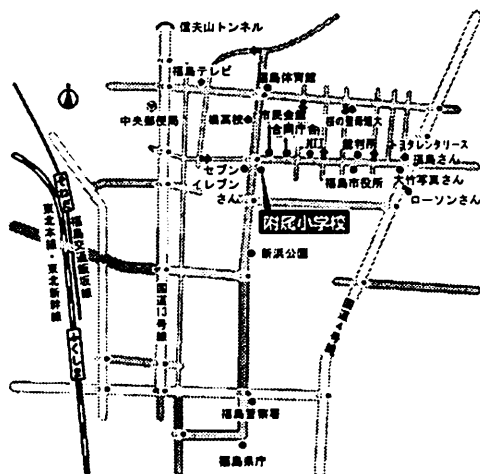
■ 会場へのアクセス

福島大学附属小学校

〒960-8022 福島市新浜町4番6号

バス: 福島駅東口より市内循環1コース

「附属小学校前」下車 徒歩約8分



9月30日(土) 9:30~11:30

課題研究 I

教科で育てたい「力」とは

(M21)

コーディネーター

市川 博(帝京大学)
臼井 嘉一(福島大学)

司会者

市川 博(帝京大学)
庄司 他人男(福島学院大学)

提案者

梅原 利夫(和光大学) 各教科・教科横断・教科総合で育てる学力27
三石 初雄(東京学芸大学) 近年の実践的カリキュラム研究と教科での学び
-いくつかの事例分析を通して-29
宮前 貢(福島大学・元福島大学教育学部附属小学校副校長)
授業で育てる「力」について考える
-学力向上を目指す授業実践の課題-31

〈設定趣旨〉

教科の授業は、基本的にその教科でねらう「力」の育成をめざしているが、教科の枠を超えて総合的に展開していくことが必要となる「場」がある。その「場」とは何か。その「場」で育てられる「力」とはどのようなもので、その意義は何か。前日の福島大学附属小学校における研究授業とその討論を踏まえつつ、授業における教科独自の位置・役割、教科相互の関係性を視野に入れつつ、どのような学力をどう育てていくかを究明していきたい。

*なお、本課題研究と連動して、福島市新浜町にある附属小学校で、前日に授業研究会が行われます。

9月30日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅱ

小学校における英語教育

(M22)

コーディネーター・司会者

柴田 義松 (東京大学名誉教授)

諸岡 康哉 (金沢大学)

提案者

梅本 裕 (京都橘大学) 「ことば育て」の小学校英語教育を

－歌とゲームの英語教育を越えて－ ……33

柏村 みね子 (中野区第三中学校) 中学校から見た小学校英語教育導入の影響と今後 …35

加納 幹雄 (金沢大学) 小学校における英語教育

－日本人を育てるという視点－ ……37

指定討論者

下田 好行 (国立教育政策研究所)

〈設定趣旨〉

小学校への英語教育導入をめぐるのは、現在さまざまな議論が飛び交っています。世論からの支持と政治家など上からの要請があり、中教審は内部での異論を押し切って導入を決めたようですが、有識者の反対はその後も続いています。しかし、実際にいよいよ始まるという時、子どもへの害を最小限におさえつつ、最大限の効果をあげるためには、どのような教育をしたらよいのか。なるべく具体的なデータを基にしながら、教育方法学の立場からの綿密な検討と活発な議論が展開されることを期待しています。

9月30日(土) 13:30~15:40

自由研究1

(S24)

司会者 谷川彰英(筑波大学)
若菜博(室蘭工業大学)

- 13:30 ① 問題解決型学習が成立する空間・時間に関する一考察
- 中学校選択理科の授業実践を通して -39
叶田真規子(首都大学東京大学院)
- 14:00 ② 高度経済成長期の四日市、公害教育の10年40
土井妙子(一橋大学大学院)
- 14:30 ③ 公害学習の遺産に学ぶ
- 田中裕一の水俣病実践を中心に -41
若林身歌(山形大学)
- 15:00 ④ 産官学が連携した授業づくりにおける教育方法のあり方
- 千代田区での環境教育を事例にして -42
○塩田真吾(千葉大学大学院研究生)
○藤川大祐(千葉大学)

自由研究2

(S22)

司会者 土井捷三(園田学園女子大学)
水原克敏(東北大学)

- 13:30 ① 明石女子師範学校附属小学校の教育方法
- 自ら進んで学習に取り組む子どもをどのように育てたか -43
伊藤真治(滋賀大学教育学部附属小学校)
- 14:00 ② 戦前生活綴方における作品批評の観点
- 村山俊太郎を中心に -44
川地亜弥子(大阪電気通信大学)
- 14:30 ③ 五大学共同研究と教授学の出発45
狩野浩二(鹿児島大学)
- 15:00 ④ 戦後初期の明石附小プランにおける研究体制
- 元教師への面接調査を手がかりに -46
溝邊和成(広島大学)

9月30日(土) 13:30~15:40

自由研究3

(S23)

司会者 阿部好策(新潟大学)
日比裕(名古屋大学名誉教授)

- 13:30 ① 現代ドイツの学級におけるグループ活動に関する一考察47
吉田茂孝(広島大学大学院)
- 14:00 ② 学習集団論における他者の意味についての検討48
今井理恵(大阪市立大学大学院科目等履修生)
- 14:30 ③ 教室談話分析研究における NDS 評価の役割49
落合一浩(筑波大学大学院)
- 15:00 ④ 「学びの共同体」づくりと教師の指導性に関する一考察(6)50
三橋謙一郎(徳島文理大学)

自由研究4

(S21)

司会者 長尾彰夫(大阪教育大学)
本田敏明(茨城大学)

- 13:30 ① オーストラリアにおけるリテラシー教育のカリキュラムと授業構成
-多文化主義を乗り越える展望と課題-51
竹川慎哉(名古屋大学大学院)
- 14:00 ② コンテンツ・リテラシーの評価に関する研究
-教科における書く力の評価を中心として-52
北川剛司(広島大学大学院)
- 14:30 ③ 社会文化的アプローチからみたリテラシー教育の展開と課題53
黒谷和志(北海道教育大学旭川校)
- 15:00 ④ OECD の「キー・コンピテンシー」と「知を活用する力」の枠組み
- PISA 型読解力を育成する教材・単元開発を中心として-54
下田好行(国立教育政策研究所)

9月30日(土) 13:30~15:40

自由研究5

(S31)

司会者 西岡 けいこ (香川大学)
山下 政俊 (島根大学)

- 13:30 ① 保育者のイメージする「手づくり玩具を使った1歳児の遊びへの援助のあり方」
-子どもと保育者の楽しい関係を考える-についての
アンケート調査の分析55
寺島 明子 (松本短期大学)
- 14:00 ② 子どもの“こだわり”に寄り添う保育(2)
-概念的理解から子どものこだわりに寄り添うまで-56
橋川 喜美代 (鳴門教育大学)
○松本 なるみ (宇都宮短期大学)
- 14:30 ③ 指導方法からの保育4
-「型」にみる指導技法・幼児は「型」を創造するか-57
伊澤 貞治 (皐月幼稚園)
- 15:00 ④ 保育実践力を育てる短大授業の改善と課題
-担当科目の実践から-58
腰山 豊 (聖園学園短期大学)

自由研究6

(S32)

司会者 岩垣 攝 (千葉大学)
西岡 加名恵 (京都大学)

- 13:30 ① 学びのワークショップ化に関する研究59
水野 育太 (愛知教育大学大学院)
- 14:00 ② 見学活動とその後の授業における子供の知の形成60
酒井 喜八郎 (名古屋大学大学院)
- 14:30 ③ ドイツにおけるプロジェクト法の理論的特質に関する一考察61
渡邊 真依子 (広島大学大学院)
- 15:00 ④ 授業作りを学ぶ方法としてのケースメソッドの開発62
佐藤 英二 (明治大学)

9月30日(土) 13:30~15:40

自由研究7

(S33)

司会者 藤原幸男(琉球大学)
的場正美(名古屋大学)

- 13:30 ① 構成主義理論に基づく授業実践に関する一考察63
高木 啓(広島大学大学院研究生)
- 14:00 ② 構成主義と教授学
-オートポイエシスと操作意図の間-64
牛田伸一(日本大学・ポストドクター)
- 14:30 ③ 「共生」と「学び」を結ぶカリキュラムデザイン
-社会構成主義による21世紀型市民教育の検討-65
広石英記(東京電機大学)
- 15:00 ④ 知識の「コト」化学力論へ
-佐藤学の「構成主義」学習論批判を通じて-66
小笠原 喜康(日本大学)

自由研究8

(S34)

司会者 奥平康照(和光大学)
豊田ひさき(名古屋大学)

- 13:30 ① 子どもが「生きられる」場としての授業
-造形活動にみる「豊かさ」の保ちと育ち-67
守山 紗弥加(奈良女子大学大学院)
- 14:00 ② G. H. ミードの「遊び」についての一考察
-幼小連携を視野に入れて-68
塩路 晶子(鳴門教育大学)
- 14:30 ③ 構成遊びの要素と教師のかかわりとの関係について69
佐野 美奈(大阪樟蔭女子大学)
- 15:00 ④ 異校園による連携教育研究における組織の成長に関する研究
-小中一貫、幼小連携の場合-70
小柳 和喜雄(奈良教育大学)

自由研究9

(S35)

司会者 鈴木 秀一 (北海道大学名誉教授)
三上 勝夫 (北海道教育大学)

- 13:30 ① 「対話を通してひとがつながる」学びを目指して
- フリースクールにおける青年の「語り合い」をつむぐ教育実践 - ……71
有 川 碧 (首都大学東京大学院)
- 14:00 ② 高等学校の国語授業における協同学習による文学作品の読解過程の分析 ……72
水 野 正 朗 (名古屋大学大学院)
- 14:30 ③ 教科書教材 (小学校) 中の「文学表現の言葉」とその形態
- 思考力を発達させる「文学表現の言葉」の有効性を検証する研究 (1) - ……73
宮 坂 義 彦 (元・三重大学)
- 15:00 ④ 「校内放送」を再活用した小学生の言語活動活性化の試み ……74
○保 崎 則 雄 (早 稲 田 大 学)
北 村 史 (早稲田大学大学院)
土 井 香乙里 (早 稲 田 大 学)

自由研究10

(S36)

司会者 子 安 潤 (愛知教育大学)
中 田 基 昭 (東 京 大 学)

- 13:30 ① 人権実現のためのスキル育成方法について ……75
原 口 友 輝 (筑波大学大学院)
- 14:00 ② 教師と保護者との対話における子どもへのまなざしの変容
- 学級通信を媒介にして - ……76
大日方 真 史 (早稲田大学大学院)
- 14:30 ③ 望ましい学級経営において他者評価の与える教育的支援の在り方
- 特別支援教育の必要な児童が在籍する学級経営を通して - ……77
細 川 真 喜 (北海道教育大学大学院)
- 15:00 ④ 知的障害のある人の高等教育について
- 教授支援について - ……78
岩 永 力 男 (大 阪 大 学)

9月30日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

学力論議の新しい枠組みを探る

(L4)

コーディネーター

白井嘉一(福島大学)
藤田昌士(日本大学・非常勤)

司会者

安彦忠彦(早稲田大学)
白井嘉一(福島大学)

提案者

松下佳代(京都大学) 学力・リテラシー・コンピテンス
-その枠組みの差異-79
藤澤伸介(跡見学園女子大学) 学力の実態と学力形成の課題81
小貫崇明(福島県天栄中学校) 全教科、全教員で、子どもの学ぶ力を高め
地域での学びの「拠点」を目指す学校
-学力向上指定校の立場からの学力の捉え方と
学力形成の課題-83

指定討論者

池野範男(広島大学)
岩川直樹(埼玉大学)

〈設定趣旨〉

経済協力開発機構(OECD)と国際教育到達度評価学会(IEA)という二つの国際学力調査で日本の子どもたちの「学力」に低下傾向が見られるという結果が発表されたことをきっかけに、子どもたちのあいだに「競争意識」を涵養し「世界のトップレベルの学力水準」を確保しようということが大きく打ち出される状況下において、今改めてその調査の目的・性格の吟味や「学力」低下なるものの実態の把握、さらには「学力水準の確保」の内容とその方途の検討も求められている。かかる状況を踏まえて、その基礎にある国際学力調査における「学力」概念と文科省の学力調査・形成事業における「学力」概念の比較や、子どもにとっての「学力」の意味などの検討を通して「学力」論議の検討の枠組みにまで立ち入り、今後の新しい枠組みの在り方を探っていきたい。

今回は、「学力・リテラシー・コンピテンス-その枠組みの差異-」(松下)、「学力の実態と学力形成の課題」(藤澤)、「学力向上指定校の立場からの学力の捉え方と学力形成の課題」(小貫)について三人の方から問題提起していただくとともに、それらの問題提起に対して二人の方から「シティズンシップ形成の視点から学力論議の新しい枠組みをどう探るか」(池野)、「学力論議を踏まえて新しい枠組みをどう探るか」(岩川)という点からの発言も準備している。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(9月30日(土)) 11:40～12:30
会 場 : L4
主な議題 : 会務報告
2005年度決算
2007年度予算案
次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(9月30日(土)) 18:30～20:00
会 場 : 大学会館2階 大集会室
会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第35巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

10月1日(日) 9:15~11:55

自由研究11

(S21)

司会者 天 野 正 輝 (龍 谷 大 学)
白 石 陽 一 (熊 本 大 学)

- 9:15 ① 戦後初期の千葉県北条プランにおけるカリキュラム構造の変容の検討85
杉 本 真由美 (青山学院大学大学院)
- 9:45 ② ドルヒ (Dolch, J.) の教育課程史研究の方法論に関する一考察86
樋 口 裕 介 (広 島 大 学 大 学 院)
- 10:15 ③ 平生鈺三郎文部大臣期の学制改革構想
- 義務教育年限延長に伴う教科課程の再編と合科学習の採用について - ...87
井 上 兼 一 (中 京 女 子 大 学)
- 10:45 ④ 習得型と探求型とを統合する学びを求めて
- ポスト認知科学の学び論 -88
庄 司 他人男 (福 島 学 院 大 学)

自由研究12

(S22)

司会者 久 田 敏 彦 (大 阪 教 育 大 学)
渡 邊 光 雄 (常 磐 大 学)

- 9:15 ① 東ドイツ出身の研究者による東ドイツ教育学の自己評価に関する一考察89
吉 田 成 章 (広 島 大 学 大 学 院)
- 9:45 ② セレスタン・フレネの「個別的活動 (le travail individualisé)」についての一考察
- 「共同体 (la communauté)」概念との関係から -90
宮 橋 小百合 (大阪市立大学大学院)
- 10:15 ③ 行為に基づいた授業の構想
- 定式的記述方法の開発 -91
○ミヒャエル・シェーファー
(ルードヴィヒスブルク教育大学・茨城大学)
本 田 敏 明 (茨 城 大 学)
- 10:45 ④ 中間項の設定による行動の記述の可能性92
的 場 正 美 (名 古 屋 大 学)

10月1日(日) 9:15~11:55

自由研究13

(S23)

司会者 田代高章(岩手大学)
藤田昌士(日本大学・非常勤)

- 9:15 ① L.コールバーグのジャスト・コミュニティ・アプローチにおける道徳的雰囲気
の機能とその限界
-方法としての民主主義の克服を目指して-93
小林将太(筑波大学大学院)
- 9:45 ② 価値探究場面における「対話」についての一考察
-中学校道徳での実践を通して-94
菊地真貴子(東北大学大学院)
- 10:15 ③ 生活指導における教師の権威に関する一考察
-小川太郎の生活指導論を中心に-95
山林哲(大阪市立大学科目等履修生)
- 10:45 ④ 「道徳の時間」の実際と教員養成に求められること
-現職教師への質問紙調査を通して-96
○姫野完治(秋田大学)
細川和仁(秋田大学)

自由研究14

(S24)

司会者 鈴木京子(日本大学)
須田勝彦(北海道大学)

- 9:15 ① 初任教師の総合的な学習のカリキュラム開発に関する事例研究97
廣瀬真琴(大阪市立大学大学院)
- 9:45 ② 共同研究による教育力量形成
-小学校校内研究の課題と展望-98
中妻雅彦(杉並区久我山小学校)
- 10:15 ③ 子どもの描画における中心性の位相幾何学的認識の発達について99
本屋禎子(宮城教育大学)
- 10:45 ④ 高倉小学校と京都大学大学院との連携による授業研究100
○八田幸恵(京都大学大学院)
○柴本枝美(京都大学)
石井英真(日本学術振興会特別研究員)
赤沢真世(京都大学大学院)
遠藤貴広(京都大学大学院)
窪田知子(京都大学大学院)
木村裕(京都大学大学院)

10月1日(日) 9:15~11:55

自由研究15

(S31)

司会者 小 泉 祥 一 (東 北 大 学)
山 崎 準 二 (静 岡 大 学)

- 9:15 ① 看護学実習における経験型実習教育の検討101
芥 川 清 香 (福 岡 大 学 大 学 院)
- 9:45 ② 教職科目を通しての教員志望学生の実践イメージの変容102
深 見 俊 崇 (大 阪 市 立 大 学 大 学 院)
- 10:15 ③ イギリスのDIEにもとづく教員養成
- Jonathan Neelands の活動例を通して -103
小 林 由 利 子 (川 村 学 園 女 子 大 学)
- 10:45 ④ アルバーノ大学の教員養成カリキュラム104
安 藤 輝 次 (奈 良 教 育 大 学)
- 11:15 ⑤ スキルクリエータシステムを活用した教育実習生及び初任者教師の
授業実践能力育成支援の試みⅡ105
○平 山 勉 (名 城 大 学)
○後 藤 明 史 (名 古 屋 大 学)
○竹 内 英 人 (名 城 大 学)

自由研究16

(S32)

司会者 庄 井 良 信 (北 海 道 教 育 大 学)
森 岡 修 一 (大 妻 女 子 大 学)

- 9:15 ① ヴィゴツキー学派における教授=学習理論に関する一考察
- 発達最近接領域にもとづいた評価を中心として -106
平 田 知 美 (広 島 大 学 大 学 院)
- 9:45 ② 教養教育における対話の多層性107
杉 原 真 晃 (京 都 大 学)
- 10:15 ③ ワークショップ実践者のファシリテータとしての資質の分析108
○北 村 史 (早 稲 田 大 学 大 学 院)
保 崎 則 雄 (早 稲 田 大 学)
- 10:45 ④ 授業における子どもの思考の展開
- 子どもが共有する言葉に着目して -109
杉 本 憲 子 (茨 城 大 学)

10月1日(日) 9:15~11:55

自由研究17

(S33)

司会者 浦野 弘 (秋田大学)
片上 宗二 (安田女子大学)

- 9:15 ① 「しょうゆで考える資本主義的生産の成立」の指導プラン
- 大学における授業実践をふまえて -110
荒井 真一 (北海道大学大学院)
- 9:45 ② 企業の食育活動とメディア教育
- 学校の市場化をめぐって -111
上杉 嘉見 (日本学術振興会特別研究員)
- 10:15 ③ 授業が弾ける時にあふれ出る子どもから授業を読み返す
- 生活科の授業での一つの出来事に居合わせて -112
瀬戸 郁子 (香川大学)
- 10:45 ④ どのようにすれば授業を出来事としてとらえる姿勢を育てられるか
- 「生活科教育法」の試みを中心に -113
西岡 けいこ (香川大学)
- 11:15 ⑤ カリキュラム・コーディネータの養成を志向したe-Learningプログラムの可能性と課題
- 参加者に対する追跡調査の結果を踏まえて -114
○木原 俊行 (大阪市立大学)
○小柳 和喜雄 (奈良教育大学)
堀田 龍也 (メディア教育開発センター)
山内 祐平 (東京大学)

自由研究18

(S34)

司会者 河原 尚武 (鹿児島大学)
進藤 聡彦 (山梨大学)

- 9:15 ① 1930年代奈良女子高等師範学校附属小学校における「訓練」「訓育」の解釈115
永江 由紀子
(九州大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 9:45 ② 学級における外国人児童の居場所の事例分析をととした適応指導の再検討116
下田 薫子 (名古屋大学大学院)
- 10:15 ③ 教師の「予期操縦」
- 学級における秩序形成への影響の分析を中心に -117
早坂 淳 (筑波大学大学院)
- 10:45 ④ 授業過程における教師の統制行動に関する実証的研究118
山田 雅彦 (東京学芸大学)

10月1日(日) 9:15~11:55

自由研究19

(S35)

司会者 狩野浩二(鹿児島大学)
三橋謙一郎(徳島文理大学)

- 9:15 ① 発言に表れる子どもの論理の構造的把握
- 小学校4年「ごんぎつね」の授業分析 -119
伊藤久仁香(名古屋大学大学院)
- 9:45 ② 文学教材の授業過程で、論証に用いる証拠が体系的概念でなければ
対立問題の解決は不可能であることの実証的研究120
森川拓也(三重大学大学院)
- 10:15 ③ 仮説演繹法による文学表現の言葉(大江健三郎)の有効性の検証
- 「その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへでかけまし
た」(ごんぎつね)を対象として -121
松山豊(福島県富田東小学校)
- 10:45 ④ 西尾実における国語教育観の転換
- 植民地視察による「話しことば」の再発見 -122
齋藤智哉(國學院大学・非常勤)
- 11:15 ⑤ 方法としての身読
- 門脇佳吉の「身読」概念を中心に -123
小室弘毅(立教大学・非常勤)

10月1日(日) 13:00~15:00

課題研究Ⅲ

特別支援教育と学級経営

(M21)

コーディネーター・司会者

新井英靖(茨城大学)

湯浅恭正(大阪市立大学)

提案者

小野学(川崎市東菅小学校) 特別な教育的ニーズを持つ児童を支援する校内支援システム124

福田敦志(大阪樟蔭女子大学) 「課題を抱えた子ども」の自立と子ども集団における「共有課題」の意識化126

八木英二(滋賀県立大学) 通常学級の実態と特別支援128

指定討論者

新井英靖(茨城大学)

〈設定趣旨〉

特別支援教育は、これまでの障害児教育の制度を変えるだけではなく通常学校・学級のあり方をも大きく転換しようとしている。通常の学級において「理解はできても承認しがたい」子どもとどのようにして共同を構築するのか、学級経営はその制度・内容・方法において新しい知を求められている。しかし、一方では、学力テストの導入など、一元的な価値で子どもを序列化し、インクルージョンの思想を発展させるのではなく、特別なニーズを持つ存在を排除する傾向を見逃すことはできない。

本課題研究では、①通常学級における特別なニーズを持つ子どもの現状をどう捉えるのか、教師や親が子どもの発達障害を受け入れ、学級において積極的対応を進めていく状況・それへの個別対応の実態、一方、障害とは認定できないにしても、特別な支援を必要とする子どもへの通常学級での対応の課題・実態を明らかにする。その上で、②子どもの人格発達における「特別なニーズ」や「障害」の意味をふまえながら、特別な支援を視点にした学級集団づくりや学習集団のあり方を追求し、特別支援教育実践の展開における教育方法学研究の課題は何かを明らかにする。さらに、③通常学級での指導を担う教師の専門性とは何か、「臨床」「コーディネート」といった実践概念をも視野に入れつつ、学級経営の教育実践を創造する教師の力量とは何かを考える。

10月1日(日) 13:00~15:00

課題研究Ⅳ

教育実践をいかに理論化し、その知見をどのように伝えていくか —教育方法学と教育実践の関係を問い直す—

(M22)

コーディネーター

田中耕治(京都大学)
深澤広明(広島大学)

司会者

阿部昇(秋田大学)
深澤広明(広島大学)

提案者

園田雅春(甲子園短期大学) 授業・学級形成のための方法知伝承の可能性…130
田中耕治(京都大学) 戦後教育実践史にみる「理論－実践」問題 …132
平山満義(筑波大学) 質的研究法は、授業研究にどのように関わることができるか ……133

指定討論者

上野ひろ美(奈良教育大学)

〈設定趣旨〉

教育方法学は、教育実践と結びつくことで発展してきた学問である。教育実践の現場を観察したり、実践記録を読んだりすることで、教育実践を分析し、理論化すると同時に、そこから生みだされる理論知や方法知によって、教育実践を方向づける役割も果たしてきている。教職大学院や教師教育のあり方をめぐって教育方法学の役割が問われると同時に、教師の世界における「2007年問題」とでもいうべき事態への対応として、これまでの教育実践をどのように理論化し、これからの教師にその知見をどのように伝えていくのが重要な課題となってきた。そこで今回は、長年、小学校教師として教育実践の現場で多くの著作を発表し、現在は教師教育の現場で後進の指導に当たっている園田雅春氏、また、「教育方法学における教育実践の理論化にも大きく貢献した」戦後教育実践を『時代を拓いた教師たち』として刊行した田中耕治氏、さらに、「質的研究法による授業研究」や「エスノグラフィー」の立場からの教師効果研究を推進されている平山満義氏、の3名からご提案をいただき、指定討論者として中教審・専門職大学院ワーキンググループの委員でもある上野ひろ美氏を加えて、こんにち教師の「実践力」が強調されるなか、あらためて教育方法学と教育実践の関係を問い直し、教師教育における「理論－実践」問題を検討したい。

10月1日(日) 15:20~16:50

レクチャー・デモンストレーション(大会校企画)

「教えるとは!! その技と心」

(L4)

企画・コーディネーター

臼井 嘉一(福島大学)

岩崎 紀子(福島大学)

司会者

臼井 嘉一(福島大学)

〈設定趣旨〉

大会校である福島大学は、「大会」締めくくりの企画として、教育学者・教師・教育関係者が他分野の研究者・実践者から学ぶという趣旨から、運動学者でオリンピックのメンタルコーチも務めた白石豊教授(福島大学)による「教えるとは!! その技と心」というテーマの「レクチャー・デモンストレーション」を設定した。

白石氏は大学における教育・研究とともに、多くのトップスポーツ選手にメンタルトレーニングの指導を行い成果を挙げている。氏の主な著書として、「心を鍛える言葉」(NHK 生活人新書)、「どの子ども伸びる運動神経—幼児編」「どの子ども伸びる運動神経—小学生編」「どの子ども伸びる運動神経—指導者編」(以上 PHP) などがある。

10月1日(日) 15:20~16:50

ワークショップ①

保育のビデオ記録の撮り方と解釈をめぐって
—保育記録の理解の問題として—

(S21)

企画者

小 川 博 久 (聖徳大学)

菊 池 里 映 (聖徳大学大学院・YMCA スポーツ専門学校)

司会者

尾 上 佳 代 (YMCA スポーツ専門学校)

話題提供者

岩 田 遵 子 (東横学園女子短期大学)

菊 池 里 映 (聖徳大学大学院・YMCA スポーツ専門学校)

根 津 明 子 (東横学園女子短期大学)

本 山 方 子 (奈良女子大学)

指定討論者

小 川 博 久 (聖徳大学)

〈設定趣旨〉

保育の実践記録の手段として保育のビデオ記録は今やなくてはならないものであろう。保育という営みのプロトコルを作成する上で、出来事の再生がそのディテールにおいて可能であり、特に幼児たちと保育者との出会いを詳細に知り、その関係を読み解く上では欠くことはできない。

しかし、どんな撮り方をしても、そこから客観的なデータを得ることが可能だというものではない。カメラを向けるアングルや、切り取る画像の範囲によっても読み取りは変化してしまうこともある。

そこでわれわれは、保育についての編集上のテーマを設定して作成された、文部科学省選定の岩波映画のVTRと、われわれが撮影した幼稚園現場のVTRの両方を視聴し、ビデオ記録の撮り方と解釈の問題を討議してみたいのである。討議すべき点は次の通りである。

1. 保育という営みと映像アングルの問題
2. 保育のテーマを設定した場合のアングル限定の範囲の問題
3. 場面の解釈における読み取りの可能性と限界 (VTR 以外の情報による補足の必要性のあり、なしの問題)
4. 保育場面における個の理解と集団の理解の関連性への言及はどこまで必要か

10月1日(日) 15:20~16:50

ワークショップ②

イギリスの Drama in Education の意味
ー Jonathan Neelands のドラマ活動例を通してー
(S22)

企画・ファシリテーター

小林 由利子 (川村学園女子大学)

司会者

小笠原 喜 康 (日本大学)

〈設定趣旨〉

近年、従来から行われてきた黒板とチョークを使った教師から生徒への知識の伝達を主たる目的にした一斉授業とは異なる、生徒の授業への身体的な参加を伴う授業形態が、注目され模索されてきている。このような状況の中で「参加型獲得授業」、「共同的な学びの授業形態」、「ワークショップ型授業」、「演劇的手法」、「パフォーマンス」などのさまざまな手法の授業実践が実施され、さらにこれらの授業実践と教育方法学のつながりの明確化が求められている。さらに、このような授業を実践できる教師養成も同時に求められている。

そこで、イギリスにおける DIE (Drama in Education) の研究者であり実践家である Jonathan Neelands の身体を通した活動を実際に参加者が経験することを通して、教育におけるドラマ活動の意味について議論したい。ワークショップの内容は、以下の通りである。

- (1) ウォーミング・アップ／アイス・ブレーキングとしてのインプロビゼーションの体験
- (2) 「ブラディンというモンスター」というドラマ活動の体験
- (3) ドラマ活動を経験して考えたこと、活動に関するコメント、日本の教育においてドラマ活動を導入する意味、ドラマの学習媒体としての可能性などについての討論

備考：ドラマ活動を実際に行うので人数は24名まででお願いします。床に座ったりしますので、動きやすく汚れてもいい服装で参加をお願いいたします。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法9.	現代訓育理論の探究	1977	(2,205円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1982	(2,730円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1985	(2,940円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1987	(2,520円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1988	(3,045円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1989	(2,039円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1990	(1,794円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1991	(1,794円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1993	(1,896円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1994	(1,896円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1996	(1,998円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1997	(1,890円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1998	(2,058円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	－新学習指導要領の教育方法学的検討－	1999	(1,953円)
			(価格は税込)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。
この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。
『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2000	(1,890円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2001	(1,890円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2002	(1,995円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2003	(1,995円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2004	(1,995円)
教育方法34.	現代の教育課程改革と授業論の探究	2005	(1,995円)
			(価格は税込)

最新刊・教育方法35.

『学習意欲を高める授業－どのような学力を形成するのか－』

〈内 容〉

- I. 学習意欲を高める教材の開発
- II. 学習意欲を高める授業の方法
- III. 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚3-2-1 文京ビル2F

図書文化

TEL. 03-3943-2516